

年 月 日/

学校 年 組 番 なまえ

鹿島FC、廃食油を利活用



鹿島アントラーズFCのアカデミーハウスから廃食用油を回収するレポインターナショナル社員＝鹿嶋市平井東

スタジアム売店協力

全試合回収、航空燃料に

サッカー・J1鹿島アントラーズFC（小泉文明社長）は今季から、県立カシマサッカースタジアムの売店などから出る廃食用油を再生可能な航空燃料（SAF）として利活用する。SAFは従来の航空燃料よりも温室効果ガスの排出量を約8割削減できるといい、「持続可能な社会のモデルケースを目指す」としている。

鹿島FCは2024年12月、社会貢献活動の一環として「Fry to Flyプロジェクト」に参画した。「廃食用油を燃料にして航空機が飛ぶ世界」の実現に向けて、約200の企業・自治体を取り組み、同クラブによると、プロスポーツクラブとしては初の試みという。

現に向け、約200の企業・自治体を取り組み、同クラブによると、プロスポーツクラブとしては初の試みという。合わせてSAF製造の日

揮ホールディングス（横浜市）、廃油再生のレポインターナショナル（京都市）などと、廃食用油の供給に関する基本合意書を締結。

同クラブが回収した油をレポインターナショナルが集め、日揮ホールディングスが堺市に昨年12月に完成した国内初の国産SAF製造設備に運ぶ。同施設では廃食用油のみを原料に、年間約3万キロの供給を目指している。

昨夏から、選手寮とカフェテリアで実証的に取り組

みを開始した。昨年12月8日の町田戦で初めてスタジアムで実施。売店に協力を呼びかけ、約20の店舗から回収した。各店主らから「捨てるのにコストがかかるので助かり、環境負荷の軽減にも貢献できる」などと好評だったという。

今季からは、スタジアムで開催する全ての主催試合で回収する方針で、年間約2300キロを見込む。関連施設も合わせると約3400キロになる予定だ。

同クラブは今後、安定的にSAFの供給ができるよう、回収量を増やしたい考え。将来的にはホームタウン近隣の空港を発着する航空機への給油に加え、選手の国内外遠征時に使用する航空機へのSAF供給につなげていく計画だ。

クラブの担当者は「地域全体で回収の輪を広げたい」と目標を語った。（小池忠臣）

SAF 化石燃料以外を原料とする持続可能な航空燃料。従来の航空燃料に比べて、温室効果ガスの排出量を約80%削減する。航空機は自動車とは違い、電気や水素などの燃料で代替しにくい。そのため、SAFの利用が求められている。日本政府は2030年に国内航空会社の燃料使用量の10%をSAFに置き換える目標を掲げている。

【問1】 SAFって何？

化石燃料以外を原料とする持続可能な航空燃料

【問2】 SAFのメリットは？

従来の航空燃料よりも温室効果ガスの排出量を約8割削減できる

【問3】 鹿島FCの将来的な計画とは？

ホームタウン近隣の空港を発着する航空機への給油や選手の国内外遠征時に使用する航空機への供給

読めない文字は、かざくや、ともだちにきいてみてね

